

2025年1月17日
株式会社 毎日放送

新春社長会見概要

昨日1月16日14時より社長会見を開催し、代表取締役社長の虫明洋一とともに、MBSメディアホールディングス代表取締役社長の高山将行が出席しました。記者会見での発言概要は以下の通りです。

【毎日放送社長 虫明洋一^{むしあきよういち}】

1995年、私は入社10年目。報道担当として、ひたすら本社でライフライン情報集約を行っていました。電気、ガス、水道、鉄道について、避難所はどこ？といった情報です。「テレビを見られるのかな？」という疑問を持ちながらも、ずっと続けていました。

毎日放送では震災30年関連の番組を数多く放送します。昨夜は、2時間にわたって『刻み続ける1995年1月17日～あの日、現場で起きていたこと』を放送しました。出演した清水麻椰アナウンサーは1995年、震災の年の12月、神戸で生まれました。この番組の演出、ディレクター担当も、最年長で30代の前半、一番若い人間はまだ入社2年目で、若い世代がこの番組を担当した事をとても嬉しく思いました。

清水をはじめ、MBS若手アナウンサーは非常に元気にやっております。月曜から金曜放送の『よんチャンTV』が高い評価を頂き、視聴率も好調ですが、この番組でいろんなアナウンサーがいろんな力を発揮していると思います。ここを起点にして、毎日放送の制作力をどんどん上げていきたいと考えております。

【MBSメディアホールディングス社長 高山将行^{たかやまさゆき}】

1995年震災当時、私は編成担当でした。当時悩んだことは「CMをどうするか？」という問題でした。発災から何日間かは全国的にCM放送はありませんでしたが、東京キー局のCM復帰以降は、東京発の震災報道番組にはCM枠がありました。「関西でCMを放送していいのか？」という議論があり、「CMのところだけライフライン情報をMBSでやろう」というアイデアが出ました。その時、人々が望んでいたのは「情報」であるというのを強く思い知りました。今も心には「社会のため、人が望むことをやらないといけない」という強い思いがあります。

私は、年始の挨拶では「アップデート」という言葉を去年から使っています。「地に足をつけて世の中の最新の形に持っていきようよ」という心持ちで2年目に入っております。MBSグループ全体でアップデートしていこうと考えております。

【おもな質疑応答】

Q:1万人の第九EXPO2025開催が先日発表されましたが、現段階での応募者数は？

A:1月15日時点で1万4103人の方からご応募頂いております。応募者の地域割合は、7割が関西在住の方です。また関西以外の方も約4000人ご応募頂いております。海外からも現時点で16人の方からご応募頂きました。

Q:選挙報道について今後の取り組みは？

A:去年の国政選挙と兵庫県知事の選挙を受けて、今までのような定量的な公平性を図るあり方は見直さないといけないと思っております。報道情報局で「我々の目指すところは、投票に資するためにテレビ報道が何が出来るか？」を第一に考えて行こう」と議論を始めたところです。「投票する人にとって有用な情報」を公平に流していくことを目指し、まさに検討を始めたところです。

Q:SkyシアターMBSが去年オープンしましたが、現在の状況は？

A:去年の3月27日がこけら落としでしたが、24年12月末までで全29公演、24万19人の方々に来ていただきました。ご好評をいただいたと報告を受けております。

以上

本件問い合わせ先:コンプライアンス局広報部